

## カラマツ造林の生育実態

### 1 背景・目的

カラマツは、寒冷地に強く、樹形が安定し、成長が早い等の利点を持つ造林樹種の一つである。近年、合板等木材としての需要が高まっているため、再造林樹種にカラマツを検討している林業事業者は少なくない。しかし、県内での造林履歴(写真)はあるものの、植栽に適した立地や施業体系など不明な点が多い。そこで、県内に成林しているカラマツ造林地を調査し、再造林樹種の可能性について検討する。



写真 カラマツ造林地

### 2 技術のポイント

- (1) 適潤な土壌、高標高(図1)、尾根地形に植栽すると、良好な成長が期待できる。
- (2) 調査結果を長野県のカラマツ人工林樹高曲線図(図2)に参照したところ、地位Ⅱ～Ⅲに多く位置付けられ、県内においても申し分ない成長である。
- (3) 成長が早いため、スギより早く収穫が望める。

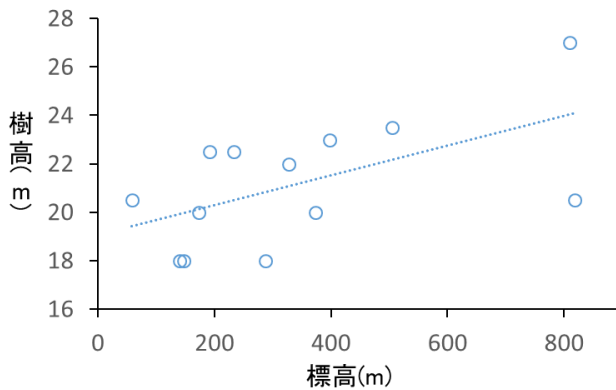


図1 調査地の標高と樹高との関係 (40年時)

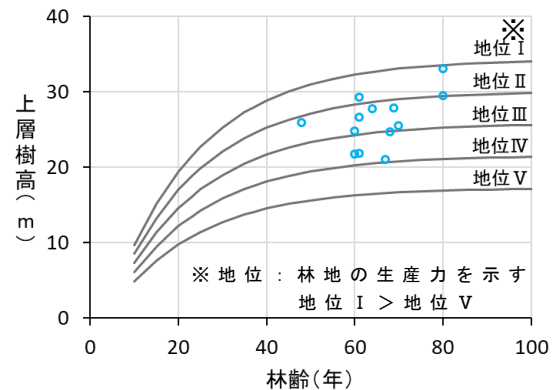


図2 カラマツ人工林樹高曲線図 (長野県民有林)

### 3 成果の活用と残された問題点

- (1) 成林しているカラマツの成長が良好であるため、生育適地であれば本県の再造林樹種として期待できる。
- (2) 木材利用を促進するため、材質を確認する必要がある。

問合せ先：森林環境部 TEL 076-272-0673  
 担当者：富沢裕子・小谷二郎